



Soto-Zen Jyousenji

浄泉寺報

創刊号

檀信徒皆様には
輝かしい新春を
お慶び申し上げます
また、喪中にて
新年を迎えられた
ご家庭には、
今年が良い年と
なりますよう
心からお祈り
申し上げます
平成二十二年 元旦

新春を迎え、謹んでご挨拶を申し上げます。

また、日頃より浄泉寺の護持に格別のご配慮を賜り、住職として厚く御礼申し上げます。

さて、昨年は、大本山永平寺三世徹通義介禪師七〇〇回御恩忌の年でございました。十月には、多くの檀信徒の皆様と報恩のご参拝をさせていただきました。ご参拝にご同行いただきました檀信徒の皆様には、遠路大変ご苦勞様でございました。

さらに、十月二十八日には、大本山永平寺東京別院の御征忌法要にて、私が焼香師（導師）をお勤めさせていただきました。このことは、一寺院の住職として大変名譽なこと、これも偏に檀信徒の皆様のお力添えの賜物でありますこと、衷心より感謝申し上げる次第であります。

また、私事です。が、昨年の三月に、地元の役場を退職いたしました。この間様々な面で檀信徒の皆様にはご迷惑をおかけしておりましたし、檀信徒の皆様との交流が疎かになっていたのではと申し訳なく思っております。

これからは、寺院が単に葬儀や法事だけの存在ではなく、本

来地域の、あるいは檀信徒の皆様の信仰と交流の場であるべきとの認識を強くし、皆様方の心のよりどころの寺として、安らぎと生きがいの場づくりに、微力ではありますが努めてまいりたいと考えております。

そこで、今年から先ずは様々な情報を皆様方にお伝えし、檀信徒の皆様と浄泉寺のご縁を更に深める一助として、この「浄泉寺報」の発行やホームページの開設をすることとしました。また、安らぎや生きがいの場づくりといったしましては、すでに行っております「御詠歌講」の充実、新たに「坐禅会」、「写経会」などを実施することといたしました。

檀信徒の皆様におかれましては、更なるご指導ご協力を切にお願い申し上げます。そして是非とも趣旨をお汲み取りくださいます。様々な行事に積極的にご参加くださいますようお願い申し上げます。

また、檀信徒の皆様からも、ご提案やご希望をお寄せいただきたいと思っております。

おわりに、本年が皆様にとって良い年でありますよう心からお祈り申し上げます。

合掌

当面の行事等

1月 1日 檀信徒初詣

午前9時から午後4時まで

1月 8日～9日

浄泉寺本寺 大雄院（日立市）開山忌

1月12日 総代・世話人会 午前11時30分

2月15日 涅槃会（お釈迦様の忌日法会）

3月17日～23日 春彼岸会

4月 8日 降誕会（お釈迦様の誕生日・花祭り）

午前10時 本堂

※ お子様方をつれて、甘茶をかけにおいでください。夕方までお参りができます。お子様にはお菓子などを用意します。

曹洞宗の教えと浄泉寺の歴史

曹洞宗の教え

お釈迦様（釈迦牟尼佛）は、坐禅によって本当の安らぎを得られました。

この教えと行いを正しく受け継ぎ、日本に伝えられたのが、曹洞宗開祖道元禪師様（一一〇〇年～一二五三年）です。さらに、四代目の螢山禪師様（一二六四年～一三二五年）は、その深い教えを広められました。お釈迦様と道元禪師様と螢山禪師様を、曹洞宗では「佛両祖」と尊称し、信仰のまこととをささげます。自らの行いによって、安らかな生活を送るのが曹洞宗の教えです。



大本山永平寺開山 希玄道元禪師



大本山総持寺開山 螢山紹瑾禪師

浄泉寺の歴史

浄泉寺の山号は、佛樹山といい、本寺は、常陸国多賀郡杉室（現在の茨城県日立市宮田町）の天童山大雄院というお寺です。

浄泉寺は、中世この下総一体を治めていた千葉氏一族の建立した寺院で、古文書や銘文などにより由緒が正しく伝えられている稀有な寺院と言われている。そのため江戸時代に刊行された「成田名所図会」や明治十六年刊行の「新撰佐倉風土記」などにも詳細に紹介されています。

寺伝によると、開創は、長祿二年（一四五八年）、開基 周心院殿月窓常輝大居士、曹洞宗中興開基は、延徳二年（一四九〇年）伊篠に所領のあった栗飯原豊後守胤光（中興開基 周心院殿寒翁浄泉大居士）が、大雄院三世 断江周恩大和尚を招いて開山、始めは周心院と称し、明応四年（一四九五年）に、伽藍が完成したと伝えられています。栗飯原豊後守胤光が没し、その子胤信が、父の菩提を弔うた



め、父の法号をとって周心院を浄泉寺に改称したとされています。

また、永正六年（一五〇九年）栗飯原豊後守胤光の一族と考えられる栗飯原右衛門三郎が実父左近将監から譲られた、下金山（成田市）、松崎（成田市）、伊篠北方の土地の内、伊篠北方の土地を周心院に寄付しており、天文二十三年（一五五四年）、栗飯原準人胤光が、本尊十一面観世音菩薩の後背を寄付しております。これらのことから浄泉寺が、栗飯原一族と密接な関係を持つ寺院であることがうかがえます。

栗飯原氏は、千葉氏の有力な一族で、伊篠に館を構え、千葉氏の玄鼻城時代から、数々の合戦に参加したと伝えられています。

り、古文書に見える栗飯原左近将監、右衛門三郎親子が所有していた下金山（成田市）は、本佐倉城主となった千葉輔胤一族の本領に含まれる土地であることなどからも、伊篠の栗飯原氏は千葉氏の直臣であり、浄泉寺は、千葉氏直臣の栗飯原豊後守胤光一族の菩提寺であったことがわかります。

本尊 十一面観世音菩薩

浄泉寺中興開基、栗飯原豊後守胤光の守り本尊であったと伝えられています。銅造り、像高二十八・五センチメートル、臂長十七センチメートル、体奥五センチメートルの小柄な像ですが、室町時代の様式がよく表現されています。台座の背面に「妙観禅尼」の銘があり、この妙観禅尼とは、胤光の母であったと伝えられています。本堂須弥壇上に安置されています。（昭和四十六年 町指定文化財）



金沢市 大乘寺 仏殿

れた禅師を偲び、報恩感謝の法要を行いました。



大乘寺での徹通禅師報恩法要



大本山 永平寺 唐門前で

二日目は、大本山永平寺にて三世様の法要と参拝者各家のご先祖様のご供養をいたしました。その後、世界遺産「白川郷」を観光し、高山で宿泊しました。三日目は、高山陣屋や朝市を楽しむ帰路に着きました。三日間、お天気に恵まれ、事故もなく、徹通禅師さまのご縁を結び、また、ご先祖様のご供養もされ素晴らしい旅となりました。お疲れさまでした。



禺中調経法要



大本山永平寺 福山諦法禅師様と



ご随喜の御寺院様方・随行之檀信徒の皆様と記念撮影



お地藏さまが可愛らしく

お寺の入口におまつりしている六地藏尊に、帽子等が着せられました。すると、とても可愛らしくなりました。東酒々井の多田とし子様のご寄贈です。有難うございました。



十一月二十六日、曹洞宗の梅花流御詠歌千葉県

浄泉寺梅花講梅花流千葉県大会に参加

大会が千葉市青葉の森芸術文化ホールで開催され、浄泉寺の梅花講も参加しました。新亡精霊供養御和讃をお唱えしました。

各種講座の等のご案内

◎梅花流（曹洞宗）御詠歌講

梅花流詠賛歌は、曹洞宗の御詠歌・和讃です。

詠賛歌を学んでいくと自然に安らかな気持ちになり、正しい生き方を実践することができま
す。そして生きるための希望と、生きていくことへの感謝の心で幸福になります。どうぞお気軽にご参加ください。

毎月第三土曜日

午後二時から午後四時まで

◎坐禅会

曹洞宗の信仰生活の中心は、坐禅です。仏法を味わい、自己をみつめるができます。

毎月第一日曜日

午前六時から午前八時まで

◎写経会

最も簡単な仏道修行であり、心身を調え、静に落ち着いた時間を大切に祈りや願いを生活に活かすことのできる写経を、是非始めてみませんか。

毎月第三日曜日

午後二時から午後四時まで

※ これらの講座は、日時が変更となる場合がありますので、お問い合わせください。

浄泉寺墓苑のご紹介



浄泉寺では、墓地の分譲をしてあります。ご親戚や知人の方でまだ墓地をお持ちでない方がおりましたら、ご紹介ください。

永代使用料

■ 一・八 m² 二十 万円

■ 二・一六 m² 二十五 万円

■ 二・七 m² 三十 万円

■ 四・三二 m² 五十 万円

※年間管理費 三 千 円

そのほか、低廉な価格での墓石のプロデュースも行っております。お問い合わせください。

ご夫婦・個人向け永代供養墓も出来上がりました。また、大切なペットの納骨供養塔も準備しております。

浄泉寺墓苑利用者の皆様へのお願い

墓苑は、皆様のご先祖様等が眠る聖域です。日頃から清潔の維持にはご協力をいただいておりますが、近年カラス等による悪戯が目立ちます。より一層のご協力をお願いいたします。

なお、地球環境を守ることから、ビニール・空きカン・空きビン等の不燃物はできる限りお持ち帰りをお願いします。

いざという時は
先ずお寺にご一報を

ご葬儀は、どなたにとっても慣れないことです。いざという時は慌てて、事後に後悔したお話をよく耳にします。また、時間的・経済定期問題で判断に迷うこともよくあるようです。近年は、葬儀業者によって主導的に進められる例が多くなっておりますが、先ずは菩提寺にご一報ください。いろいろなアドバイスをするができます。また、慌てないために予め菩提寺に相談しておくことも重要です。（何時でも結構です。）

編集後記

お盆後に、浄泉寺ホームの製作を開始し、悪戦苦闘のすえ、ようやく開設の見通しがつき、次に、この浄泉寺報の編集に取り掛かったのですが、初めて使うパソコン・ソフトでの編集ということで、解説書を読みながらの作業でした。印刷所への入稿の期日や年賀を兼ねての創刊号ですので、郵便局への持ち込み期日のこともあり、十分なできとは言えませんが一応完成させました。今後、年三回程度の発行を予定しております。

掲載内容等にご意見やご希望がありましたら、是非よろしくお願いいたします。



副住職 宮川 義道



住職 宮川 義典

やすらぎは
ご先祖の供養から

平成二十一年 年回表

一周忌 平成二十年
三回忌 平成十九年
七回忌 平成十五年
十三回忌 平成九年
十七回忌 平成五年
二十三回忌 昭和六十二年
二十五回忌 昭和六十年
二十七回忌 昭和五十八年
三十三回忌 昭和五十二年

◎ご法事は、早めにお申し込みください。

より厳かにご供養できる本堂でのご法事をお勧めしております。

本堂で行う場合は、お位牌、遺影、生花一對をご持参ください。また、粗茶の用意をさせていただきますので参加人数も合わせてご連絡ください。

◎卒塔婆のお申し込みは、お手紙またはファックスで。お名前には、必ずフリガナをお願いします。

ファックス番号
〇四三（四九六）四四六七